



公益社団法人日本都市計画学会北海道支部（西山徳明支部長）は、2017年7月27日、「軟石を生かしたまちづくり」と題する都市地域セミナーを開催しました。今回は、札幌を中心とした地域資源である札幌軟石を生かしたこれからのまちづくりについて、「札幌軟石文化を語る会」の佐藤俊義氏を迎え、軟石ゆかりの施設や石切り場を巡るツアーと講演会、パネルディスカッションを行ったもので、以下その一部を紹介します。

クローズアップ②

平成29年度第1回都市地域セミナー(兼支部10周年記念シンポジウム)

## 「軟石を生かしたまちづくり」

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部 副支部長 小松 正明

### 第一部

「北海道の軟石文化」佐藤 俊義 氏(札幌軟石文化を語る会)

#### ■ 札幌軟石との出会い



私は造園設計会社に勤務し、札幌市南区の藻南公園の札幌軟石ひろば建設での仕事の際に、地元の石工や住民とワークショップを行ったことで札幌軟石と出会いました。そのときにまだ手で軟石を

切り出していた手仕事を再現してみようと、札幌軟石の切り出し方のパネルづくりをしたことが、「札幌軟石文化を語る会」の運動に続きました。

一方、札幌建築鑑賞会と協力して、札幌に軟石建築物がどれくらいあるかを調査し、約300軒の軟石を使った建物が確認され、こうした活動の結果が新聞などにも取り上げられて、軟石ファンを増やすことにつながりました。

#### ■ 札幌軟石の誕生と建築素材

札幌軟石が資材として使われるようになったのは約150年前のことで、お雇い外国人からのアドバイスで

不燃建築素材としての軟石の利用が推奨されました。札幌軟石は、約4万年前に支笏湖の元となった支笏カルデラ噴火による火砕流が札幌方面へ流れ出て、沢地を埋めて固まった溶結凝灰岩ようけつぎょうかいがんという種類の岩です。札幌市内の近くで産出されたものが札幌軟石と呼ばれるようになりました。

#### ■ 各地域に広がる軟石文化

溶結凝灰岩は古い火山噴火があれば見られるので、道内各地にも地元建築素材として軟石を切り出した事例があり、美瑛軟石や網走軟石など地域独自の軟石文化があります。ただ、切り出しが放棄された石切り場跡の多くは森林化が進み、歴史に埋没しかけています。

明治から昭和初期までは札幌軟石造りの建物が多く作られましたが、軟石は切り出す深さで強度にムラがあることから戦後すぐの建築基準法の改定によって、組積造そせきぞう（石・れんが・ブロックなどを積み重ねて建造物を造る方法）建築は制限が厳しくなり、やがて衰退しました。しかし、現在は解体された軟石建築の軟石を外壁材や内装材として再利用する新しいニーズが生まれています。

## ■ 軟石がつくる景観文化

軟石建築による景観文化は、札幌や北海道らしい地域景観資源になるポテンシャルがあるので、これまでの軟石建築物を再認識することが大切です。また、実際に軟石を切り出しているのは、この日に見学した辻石材工業(株)一社のみとなっており、現在そして今後のニーズを支える技術力を継承していく必要性・重要性をより多くの人に理解してほしいと思います。

## 第二部

### パネルディスカッション

#### ■ 縞々がかっこいい札幌軟石

小原 恵 氏 (軟石や代表)

つるはしで職人がつけた縞々しましまが特徴の札幌軟石がかっこいいと思って辻石材に入社しましたが、軟石にまつわる感動をより多くの人に伝えたくて、軟石の端材を使って家の形の“かおるいえ”という軟石グッズを作りました。そしてその活動が東海大学の学生たちとの作品づくりやパン焼き窯、軟石を使ったワークショップ、石山緑地（札幌市南区）キャンドルナイトなどに発展しました。

2年前から、軟石を加工販売する「軟石や」という工房を立ち上げて独立し、石山で創作活動を続け、札幌のお土産みやげとして認知が高まっていると感じています。どこに行っても素通りされない軟石は、北海道の観光大使になるのではとひそかに思っています。

#### ■ まずは見て楽しむこと

角 幸博 氏 (NPO法人歴史的な地域資産研究機構代表理事)

軟石建築も含め、歴史的建築を鑑賞することは、興味を持ち、好きになることにつながり、それは地域にとっての力になるでしょう。



札幌景観色を使った軟石グッズ

札幌市の景観行政活動では、いずれ文化財となりうるような将来資産として価値ある現代建築もリスト化していますが、まちの景観価値を高める建築となるとどうしても歴史的な建築が多くなります。

私は建築物を評価するのに、『思い入れ価値』という概念を入れていますが、地域の人に愛されているということは一つの価値だと思います。壊されてなくなってしまう建物もあります。建物を残したいと思ったら、その建物と持ち主をほめちぎることが一番効果があります。外国人に対する観光振興の風潮もあって、今は歴史的建築にとって追い風だと思います。

#### ■ 知ること、語り合うこと

佐藤 開拓の村のイベントで、外国の方に札幌軟石を説明するとき、「サッポロストーン」と言うと、目を丸くして喜びました。好きなことは、知ると話したくなります。物質としての溶結凝灰岩ではなく、札幌軟石という物語をつたえることが大事で、それを語り合って共有し、軟石好きを増やしたいと思います。

#### ■ 情報共有と地域との関係づくり

会場から 軟石の建築を維持するのは、持ち主の負担にもなります、その持ち主が、何かあったときに連絡をとりあえるような情報の収集と発信が出来ていくことがいい。

角 士別市の旧佐藤医院は、使われなくなった建物を利用した心地良い地域のための空間です。子どもの頃の記憶をうまく結びつけながら、旧石山郵便局「ぼすとかん」のように現代的な技術と職人の手わざつなを繋ぐような方法があります。

#### ■ まとめ

小松

今日は、軟石にまつわる多面的な話題に触れることができました。明日からは皆さんも軟石マニアになって建物をほめてください。